

各ワーキンググループ等の検討状況等について

I. エゾシカ・ヒグマワーキンググループの経過報告・今後の予定

1 経過報告

(1) H30 年度エゾシカ・ヒグマ WG の開催概要

●第 1 回会議

平成 30 年 5 月 24 日 (木) 釧路市 (ヒグマ関係)

平成 30 年 5 月 25 日 (金) 釧路市 (エゾシカ関係)

○主な議題

<ヒグマ関係>

- ・2017 (平成 29) 年度アクションプラン実施結果について
- ・2018 (平成 30) 年度アクションプランについて
- ・モニタリング及び調査・研究について

<エゾシカ関係>

- ・2017 (H29) シカ年度実行計画実施結果について
- ・2018 (H30) シカ年度実行計画案について
- ・植生モニタリング及び植生指標について

<共通>

- ・長期モニタリング計画の見直しについて

○主な内容

<ヒグマ関係>

- ・平成 29 年度のアクションプランの実施結果を踏まえ、岩尾別川河口部における混乱の発生に関して、利用者のさらなるアクセスコントロールを行うための現実的な仕組みについて、容易に達成できるものではないものの引き続き検討・調整を行うことが必要とされました。
- ・管理計画に基づくモニタリングの実施結果及び目標の達成状況について、可視化されたことは大きな前進との意見が出た一方で、達成できなかった項目を検証し、次年度のアクションプランにフィードバックするという考え方が必要であるとされました。
- ・個体群の動向を継続的に把握していくための調査体制作り及び個体数推定手法の改善が今後の検討課題とされました。

<エゾシカ関係>

- ・H29 シカ年度の個体数調整の結果について、世界遺産地域内での総捕獲数及び航空カウントによる発見密度は、知床岬地区 8 頭、12.5 頭/km²、ルサー相泊地区 78 頭、1.9 頭/km²、幌別ー岩尾別地区 109 頭、1.9 頭/km²でした。針葉樹が多い植生では見落とし率が問題となることが指摘されました。
- ・世界遺産隣接地域における個体数調整の結果は、宇登呂地区 26 頭、遠音別地区 20 頭、真鯉地区 14 頭、春苧古丹 16 頭でした。捕獲頭数については小雪の影響が考えられました。
- ・世界遺産隣接地域における管理方針の一つであるコミュニティベースの個体数調整 (資源の持続的利用) について、地域住民や関係者それぞれの立場を考慮しつつ、第 4 期計画に向けて、引き続き検討することとなりました。

- ・植生モニタリング調査では、広域森林調査において、知床岬地区の林床のササの被度と嗜好種の回復傾向がわずかにみられ、また海岸草原の調査では柵外で一部の草本の回復傾向がみられるなど、エゾシカの個体数調整の効果が示唆されました。一方で、森林における下枝や稚樹などは回復傾向がみられず、木本類の回復には時間がかかると考えられました。
- ・植生モニタリングのデータベース（主にメタデータ）の構築について検討を行いました。
- <共通（長期モニタリング計画の見直しについて）>
- ・長期モニタリングとして行う項目と、管理計画のモニタリングとして行う項目の整理を行いました。WGとしては評価項目Ⅲ（生物多様性の維持）、Ⅵ（エゾシカによる過度の影響）、Ⅶ（レクリエーション利用）について担当していくこととなりました。
- ・エゾシカ・ヒグマWGが担当する評価項目Ⅵのうち、No. 11のシレットコスミレは、高山帯の生態系全体で考える必要があり、科学委員会で評価する方が適当ではないか、との意見がありました。
- ・エゾシカ・ヒグマWGが評価を担当するNo. 15の中小大型哺乳類については、事務局の見直し案では評価者を科学委員会としていましたが、哺乳類の専門家が多数いるエゾシカ・ヒグマWGによる評価が適しているのではないかと、との意見がありました。
- ・これらの意見等について、第2回の科学委員会で報告に向けて引き続き議論し、第2回WGで見直し案を固めることとなりました。

2 今後の予定

H30年度エゾシカ・ヒグマWGの開催予定

●植生指標検討部会

平成30年11月1日（木） 札幌市

主な議題（予定）

- ・植生調査結果（速報）について
- ・植生指標の評価手法等の検討について

●第2回WG会議

平成30年11月19日（月） 釧路市（ヒグマ関係）

平成30年11月20日（火） 釧路市（エゾシカ関係）

主な議題（予定）

<ヒグマ関係>

- ・平成30年度ヒグマ管理対策結果（速報）
- ・ヒグマ管理計画アクションプランの検討

<エゾシカ関係>

- ・H30シカ年度植生モニタリング事業結果（速報）
- ・隣接地域の管理方針の検討
- ・植生指標について

<共通>

- ・長期モニタリング計画の見直しについて